

大学入学共通テスト 受験アドバイス

問題の「見た目」に惑わされず「設問形式」を軸に試験の全体像を理解しよう！ 水野 卓

大学入学共通テスト 英語 リーディングの構成

大問	設問数	分野	語数(程度)	大問	設問数	分野	語数(程度)		
1	A	情報の読み取り (ウェブサイトやニュースレターなど)	100～250	4	5	資料情報読み取り (論説文・生活文総合問題)	500～600		
	B							3	
2	A			5	250～300	5	5	長文読解 (物語文・史実文総合問題)	600～700
	B		5						
3	A		2	300～400	6	A	4	長文読解 (評論文・説明文総合問題)	600～700
	B		3			B			

回を重ねてテストの全体像と特徴がより明らかになるにつれて、対策ポイントが難易度よりも「構成の理解」にあることがより鮮明になってきました。受験生の目には「見た目が違う問題」イコール「新傾向問題」と映りがちですが、リーディング問題の見た目の印象を左右する本文スタイルやそれに付随する表、プレゼンシートなどの違いは、実際には単なるバリエーションの相違に過ぎず、求められる力が「必要な情報を正しく効率よく検索する」ことであることは一貫して変わりありません。「見た目の違い」に動揺しないために、そして本書をさらに効果的に利用するためにも、このアドバイスを通じてリーディング問題の本質を正しく理解してください。その上で本書を最後までしっかり理解することで、試験時間 80 分を誰よりも有効な形で利用し、作業を正確に進めるために必要なスキルはすべて手に入ります。受験のスタートを飾る共通テストを最高の形で駆け抜けてください。

英語リーディングの問題構成

第1～第3問 小問集合

第1～第3問は「設問形式をひと通りラインアップさせる」ためのパートです。したがって各問題で使用される読解資料は毎年変わります。読解資料の種類・形ではなく、全体を通じて「どの形式の設問にはどう対応するか」を意識して対策することが重要です。

- ▶ **目標解答時間** 全体で 25 分
- ▶ **読解資料** すべて生活文 (= 掲示・案内・説明・メール・日記 etc.)。分量は最大で 400 語未満
- ▶ **設問の構成**

基本型設問

+

共通テスト型設問

○ 1 箇所特定型

○ 複数箇所照合型

○ 要約・類推型

+

【本文 × 資料照合問題】

【fact/opinion 分別問題】

【順序整理問題】

* 基本型設問を中心に、共通テスト型各設問がランダムに配置される。全体を通じてすべての形式が出題される。「この問題にはこの形式」という対応関係はない。

- ▶ **作業手順** すべての読解資料を読む→すべての設問に解答する

- ▶ **作業のポイント**
 - ① 資料を読む時間を安定させる
1 分 100～120 語。第3問で「目標 3 分、最悪 4 分！」と考えれば OK。
 - ② 共通テスト型設問の解答手順を固定する

第4～第6問 総合読解問題

第4～第6問は「スタイルの異なる文章の中に基本型設問と共通テスト型設問を混在させてトータルな情報処理能力を試す」問題が並びます。本文は3種類で、これは固定されるため、見た目の変化は考える必要がありません。第1～第3問で出題されたすべての形式の設問が長文に应用される形で出題されるため、各設問形式への対応力を整理して鍛える必要があります。

▶ 問題のタイプ

第4問 論説文・生活文総合問題

第5問 物語文・史実文総合問題

第6問 評論文・説明文総合問題 × 2 (以下の2タイプが各1問)

全体観察型 → 本文全体の「まとめ・流れ」の把握を重視した設問が中心になるタイプ。
共通テスト型設問 (= 本文×資料照合問題・順序整理問題) が中心。

細部把握型 → 「ここにこう書いてあるからこれが正解」のタイプ。
基本形設問 (= 設問キー検索問題) が基本。

▶ **目標解答時間** 第4問+第5問 = 25分 第6問 A + B = 25分

▶ **作業手順** 本文前半を読む→該当設問に解答する
本文後半を読む→残りの設問に解答する

*前半・後半は段落単位で分割。読む時間は前後半とも3分がベースで最大4分。本文全体としては最大7, 8分。

▶ **作業のポイント** 第1～第3問と同様。

参考 本冊 p.61/p.71/p.90 「解法のポイント」

上に示した形式上の特徴を理解し、「見た目」よりも「設問形式」に意識を向けて作業を安定させることがポイントになります。本書を徹底的に利用して、完璧な対応力を身につけてください。頑張ってください。